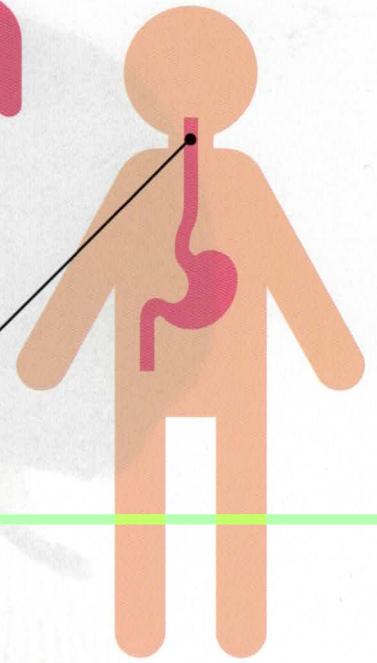


臓器のはなし



今月は 食道

消化器官へ通じる 最初のルート

免疫力が落ちると
カビが生える？

食道は、長さ約30cm、太さ2〜3cmの筒状です。食べ物や飲み物は、食道を通過して胃へ送られます。その際、筋肉の管である食道が蠕動運動（収縮運動）を行い、グイグイと押し込んでいきます。逆立ちしても、重力に関係なく飲んだ水が胃に送られ

ていくのは、このためです。

蠕動運動とは心臓の拍動と一緒に、自律神経によって無意識のうちに行われています。神経疾患など神経に異常がある病気を患った場合、食道の動きも悪くなります。また筋肉で形成されている食道は加齢によって衰えますから、老齢期を迎えると食べ物がつまる感じがする方が増えるのは当然のことでしょう。

胃は、強い酸性の胃液によって、口から入ったさまざまな悪い菌を撃退できます。一方、食道には、そこまで強い抵抗力がありません。そのため、免疫力を下げるステロイド剤、抗生剤などの薬の吸入や内服、または、疾患（HIV、糖尿病など）により、カビが生えやすくなってしまいます。カビが生えてしまうと炎症が起きたり、粘膜が傷ついたり、など様々な症状が出てくる場合があります。

また加齢により、胃の中で胃液と混ざり合った食べ物や胃酸が逆流しやすくなり、逆流性食道炎の発症が起りやすくなります。胃液は強い酸を含んでいるため、炎症だけでなく、出血する場合もあります。

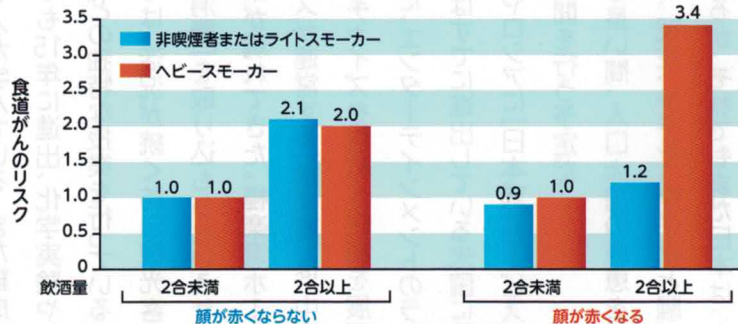
酒・タバコ・刺激物は リスク要因です

通常、食道は扁平上皮、胃は円柱上皮という粘膜に覆われています。ところが、逆流性食道炎などによって、食道の粘膜が、胃と同じ円柱上皮に変化することがあります。この状態を「バレット食道」といい、食道がんのリスクを高めるといわれます。

バレット食道になるのは、逆流性食道炎に限った話ではありません。ヘビースモーカーやお酒をたくさん飲む人にも多いそうです。同様に辛い刺激物や熱いものを好む人も食道の粘膜に負担がかかり、長くその状態が続けば粘膜が傷つき、さらにひどくなるとがんになるリスクが高まると考えられています。

食道がんは、早期発見が難しいがんの一つです。初期症状は、胸やけやおなかの痛みなど逆流性食道炎の症状と変わりません。さらに進行すれば、食べ物を飲み込んだ時に、胸のあたりが詰まった感覚が残り、胸やけがします。お酒をよく飲む人や喫煙者の方で、そんな症状が出たら、胃カメラ（内視鏡）で調べてください。

喫煙・飲酒と 食道がんのリスク



※顔が赤くなる体質のヘビースモーカーは、飲酒量が増えると食道がんのリスクが高くなる

出典：「国立がん研究センターの多目的コホート研究」より抜粋

監修

浅海 直
あさうみ すなお
(医療法人社団 平成医会 産業医)



1993年千葉大学医学部卒。2007年12月まで松戸市立福祉医療センター東松戸病院（内科副部長）、2008年1月より板橋区役所前診療所に勤務。専門分野は糖尿病、脂質異常症、甲状腺疾患等の代謝・内分泌疾患および老年医学。